

総合資格学院は学科試験も設計製図試験も「日本一」の合格実績！

☆☆☆
**1級建築士
試験**
平成29年度
設計製図試験
合格者占有率

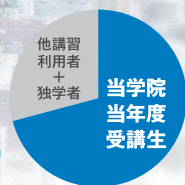
☆☆☆
**1級建築士
試験**
平成26～30年度
学科試験
合格者占有率

No.1

平成29年度 **1級建築士
学科・設計製図試験**

全国 ストレート合格者占有率

70.7%



全国ストレート合格者1,564名中、当学院当年度受講生1,105名
(平成29年12月21日現在)

平成29年度 **1級建築士 設計製図試験**

全国 合格者占有率

63.7%

全国合格者3,365名中、当学院当年度受講生2,145名
(平成29年12月21日現在)

平成26～30年度 **1級建築士 学科試験**

全国 合格者占有率

50.5%

全国合格者合計23,360名中、当学院受講生11,804名
(平成30年9月4日現在)

学習方法の選択で合格に大きな影響が！！

平成30年度
1級建築士学科試験
全国合格率 18.3%
に対して

当学院基準達成
当年度受講生
合格率

50.3%

当学院 基準達成
当年度受講生 3,113名中、
合格率 1,565名

その差
約 **4倍**

独学者、
他スクール利用者
合格率
13.2%

※上記合格率は、出席率9割、宿題提出率9割を達成した当学院当年度受講生の合格率です。(平成30年9月4日現在)

平成29年度 **設備設計1級建築士講習 修了考查**

当学院当年度
受講生修了率

全国修了率
64.5%に対して

92.7%

当学院実受講者55名中、修了者51名 (平成29年12月20日現在)

平成31年度 **建築士「上位資格」対策講座**のお知らせ

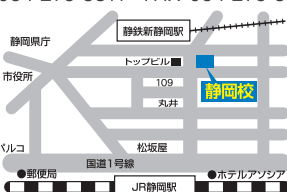
- 設備設計1級建築士対策講座
- 構造設計1級建築士対策講座

受講生
募集中!

無料 資料請求 各種講座の資料を送付いたします！
まずは、お気軽にお問合せください！

※当学院のNo.1に関する表示は、公正取引委員会[No.1表示に関する実態調査報告書]に基づき掲載しております。※全国合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表によるものです。※全国ストレート合格者数は、(公財)建築技術教育普及センター発表に基づき算出。※学科・製図ストレート合格者とは、平成29年度1級建築士学科試験に合格し、平成29年度1級建築士設計製図試験にストレートで合格した方です。※総合資格学院の合格実績には、模擬試験のみの受験生、教材購入者、無料の役務提供者、過去受講生は一切含まれておりません。

静岡校
静岡市葵区伝馬町 9-1 河村ビル 5F
TEL:054-275-3311 FAX:054-275-3301



浜松校
浜松市中区中央 3-9-3 UNビル 2F
TEL:053-456-2211 FAX:053-456-2261



沼津校
沼津市高島町 6-3 アゼル沼津ビル 1F
TEL:055-930-2621 FAX:055-930-2622



総合資格学院



スクールサイト www.shikaku.co.jp
コーポレートサイト www.sogoshikaku.co.jp
総合資格 検索 Facebook 「総合資格 fb」で検索！

1級・2級 **建築士** 構造設計1級建築士 設備設計1級建築士 建築設備士 1級・2級 管工事施工管理技士 建築施工管理技士 1級・2級 土木施工管理技士 宅地建物取引士 インテリアコーディネーター 賃貸不動産経営管理士

公益社団法人 **静岡県建築士会**

定価 1部260円、送料 1部100円
会員の方には購読料として会費の中に含まれています。

建築静岡 Winter 2019

第 667 号 平成31年 1 月 1 発行
昭和33年12月25日第 3 種郵便物認可

発行所 公益社団法人静岡県建築士会
静岡市葵区御幸町 9 番地の 9
T E L 054-254-9381
印刷所 (有)橋本印刷所

建築静岡

KENCHIKU SHIZUOKA

新年号 2019 Winter No.667



特集

- 海外建築ボランティアに参加した2週間のお話
- 第9回高校生の「建築甲子園」 静岡予選大会
- 第11回 静岡県景観賞



公益社団法人静岡県建築士会
Shizuoka Association of Architects & Building Engineers
<http://www.shizu-shikai.com>

第11回 静岡県景観賞

—平成30年度受賞地区—

常葉大学静岡草薙キャンパス



キャンパスとランドスケープが一体となることで創出される景観

写真1

写真2



キャンパスと周辺環境との調和

写真3



大学の顔となるゲート

写真4



富士山への眺望を生かしたテラス

最優秀賞(県知事賞)は、伝統的な畳石式栽培方法を守り続け、天城山の森林に育まれた豊かな水資源を活かした“地域で継承！八岳(やつおか)地区の「わさびの郷」づくり”が選ばれました。

建築関連では、“常葉大学静岡草薙キャンパス”が優秀賞(建築士事務所協会賞)を、“静岡県富士山世界遺産センター”及び“磐田卓球場ラリーナ”が奨励賞を受賞しています。

なお、本賞を主催する「美しいしずおか景観推進協議会」には本会も正会員として参加し、本誌でも「シリーズ景観」を148回に渡り連載、平成26年度からは受賞地区を年度ごとまとめて掲載しています。

静岡県富士山世界遺産センター

写真5



逆さ富士を模した逆円錐形の展示棟

写真6



水盤に映り込む展示棟と富士山

写真7



屋上階ホール

写真8



らせんスロープ

磐田卓球場ラリーナ

写真9



「ラリーナ」と古墳の森の間のジョギングコースを走る市民

写真10



緑豊かな運動公園の古墳の森

写真11



開放的な内部の様子

賞 名	受賞地区	受賞者	所在地
最優秀賞(県知事賞)	地域で継承！八岳(やつおか)地区の「わさびの郷」づくり	八岳地域づくり協議会	伊豆市
優秀賞(建築士事務所協会賞)	常葉大学静岡草薙キャンパス	学校法人常葉大学、株竹中工務店	静岡市駿河区
優秀賞(日本造園建設業協会静岡県支部賞)	奥大井接岨湖周辺	一般社団法人エコティかわね	川根本町
奨励賞	佐鳴湖公園	佐鳴湖地域協議会	浜松市西区
	静岡県富士山世界遺産センター	静岡県富士山世界遺産センター	富士宮市
	磐田卓球場ラリーナ	渡辺隆建築設計事務所、磐田市	磐田市

写真1～4：撮影 (株)エスエス

写真5：撮影 平井広行

写真6～8：提供 センターHP

よりダウンロード

写真9・11：photo©長谷川健太

写真10：提供 渡辺隆建築設計

事務所

まちせんサポートセンター (NPO 法人 静岡県建築物安全確保支援協会) では

省エネ法に伴う 省エネルギー計算等の 支援業務を行っております

こんなことで
お困りでは
ありませんか？



- ＊省エネ基準適合判定に係る省エネ計算や申請書の作成
- ＊建築物省エネ法における所管行政庁への届出書の作成
- ＊低炭素建築物の認定申請書類の作成
- ＊BELS の評価申請書類の作成
- ＊長期優良住宅の認定申請書類の作成
- ＊CASBEE 申請書類の作成

(NPO 法人静岡県建築物安全確保支援協会 内)

まちせん
サポートセンター

にお任せください！

お気軽にご相談ください

☎ 054-202-5532



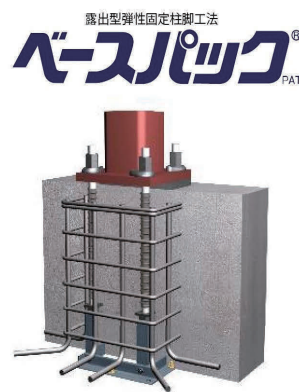
NPO 法人 静岡県建築物安全確保支援協会

〒422-8067 静岡市駿河区南町 14-1 水の森ビル 9 階 ☎ 054-202-5532

安全確保支援協会

検 索

<http://www.shizuoka-aks.or.jp/>



露出型弾性固定柱脚工法
ベースパック®
PAT.

SC杭用 杭頭接合法
クラウンパイルアンカー®
PAT.P



鉄骨梁貫通孔補強工法
OSリング®
One Side Ring
PAT.

お問い合わせ先

okabe 岡部株式会社 ベースパック事業部

〒420-0035 静岡市葵区七間町 18-1 PIVOT 静岡 301

TEL.054-204-7282 FAX054-204-7288

URL:<http://www.b-pack.net/>

平成30年度 一級/二級/木造建築士定期講習〔第4期〕

お申し込み受付中です。今年度最後の講習となります。

平成27年度に定期講習を修了し、まだ受講されていない方はお早目にお申し込みをお願いいたします。

会 場	会場コード	講 習 日	申込締切日	講 習 会 場	定 員
沼 津	4B-04	2月14日(木)	平成31年1月21日(月)	(公社)静岡県建築士会 東部ブロック事務局会議室	60名
浜 松	4B-05	2月26日(火)	平成31年2月4日(月)	アクトシティ浜松 研修交流センター 62 研修交流室 (楽器博物館 静岡労政会館	70名
静 岡	4B-06	3月15日(金)	平成31年2月20日(水)	第3会議室+展示室 (5階)	60名

≪申込書類配布期限≫ 平成31年2月15日(金) ※申込締切日は、上記に記載。

≪申込書類配布・受付場所、問合せ先≫

・本会事務局 054-254-9381

・中部ブロック 054-204-6880

・東部ブロック 055-939-8210

・西部ブロック 053-451-5166

※このシリーズは静岡県からご提供いただいたデータを基に編集したものです。

静岡県景観賞

検 索

Contents

1 目次

■新年の挨拶

2 (公社) 静岡県建築士会会長 飯尾清三
静岡県くらし・環境部 建築住宅局長 渋谷信明

■第 61 回 建築士会全国大会 さいたま大会

3 歴史に感謝 未来に約束

■委員会事業報告

4 全国大会 さいたま大会 参加報告
本会青年企画委員長 渡邊俊伸

■連載

5 景観整備機構【瓦版】 第 85 回
東部ブロックまちづくり委員長 石田充利

■連載

6 2018 しずおか木造塾 (第 1 回講座)
「ヤマベの木構造の勘どころ」「最新の構造実験の結果から学ぶ」
しずおか木造塾委員会 委員長 清水利至

■連載

7 2018 しずおか木造塾 (第 2 回講座)
「マンションの木質リフォームの極意」「国産材活用の住宅設計手法」
しずおか木造塾委員会 石上鎮夫

■コラム

8 コーヒーブレイク
“ 歴史 “ ブラックコーヒー／東部ブロック
“ 台風被害の賠償責任 “ シュワantzのブレーキング／東部ブロック

■連載

9 ハイブリット社会に生きる
住宅資産研究所 倉田剛

■特集

10 海外建築ボランティアに参加した 2 週間のお話
静岡文化芸術大学デザイン学部 3 年 小川智花
静岡文化芸術大学デザイン学部 2 年 井澤恵里子

■特集

14 第 9 回高校生の「建築甲子園」 静岡県予選大会
本会青年企画委員長 渡邊俊伸

■お知らせ、編集後記

16 事務局からのお知らせ・入退会者・会員名簿追記及び変更
編集後記・ご意見募集

新年明けましておめでとうございます。平成最後の年の始まりの建築静岡の特集は、以下の 3 つです。

- | | |
|----------------------------|-----------|
| ① 海外建築ボランティアに参加した 2 週間のお話 | 10～13 ページ |
| ② 第 9 回高校生の「建築甲子園」 静岡県予選大会 | 14～15 ページ |
| ③ 第 11 回 静岡県景観賞 | 左ページ |

①について

「ハビタット・フォー・ヒューマニティ(<http://habitatjp.org/>)」という海外で住宅等の建設の手伝いをする国際 N G O 団体があります。その活動に毎年参加しているサークルが、静岡文化芸術大学にあります。昨年の夏は、フィリピンでボランティア活動を行なったそうです。その 2 週間の体験談を文芸大の学生にレポートしてもらいました。

大学生や高校生の若き情熱に触れて、建築に対して忘れかけていた何かを思い出すことができたなら、それは、この最後で新しい年の始まりにあたって、とても良いことだと思います。それでは、みなさん、はりきっていきましょう！！

地盤調査からコンクリート杭・PC基礎の
製造・施工まで対応

目立たない安心を
お届けします

詳しくは、ホームページで▶

野村商店



www.nomuragroup.com



NOMURA
Since 1922

株式会社
野村商店

伊東営業所 TEL.0557-45-2245
伊豆南営業所 TEL.0558-22-3655
熱海営業所 TEL.0557-82-1244
伊豆中央営業所 TEL.0558-76-3114
御殿場営業所 TEL.0550-83-1306
沼津営業所 TEL.055-941-7020
静岡営業所 TEL.054-284-3461
基礎事業部 TEL.054-284-3461
浜松営業所 TEL.053-422-3636

平成31年の年頭に あたり

公益社団法人
静岡県建築士会
会長／飯尾清三



新年あけましておめでとうございます。

静岡県建築士会の会員皆様には、明るい年をお迎えのことと心よりお慶び申し上げます。

正月休みは私にとって、一年の中でも一番のんびりできる時であり、慌しかった一年の垢を落とすと共に、リセットした新たな気持ちで新年の予定を確認し初詣など、「善男善女」の真似事をする小市民の楽しみから始まっています。

会員の皆様もそれぞれに有意義なお休みをお楽しみであろうと思います。

さて、本年は平成から新しい元号に替わる年であり、気持ちも新たに会の運営に取り組むと同時に、本会が主管となり開催する四年後の建築士会全国大会へ向け、準備も進めなくてははいけません。準備委員会（仮称）の立ち上げや、大会構成、大枠での予算案の策定など、日頃の事業とは異なる取り組みに対応することとなります。会員の皆様には御協力をいただきたくお願いする次第です。

また、本年は消費税の増税や、会員の高齢

化、一級建築士を目指す人の減少、士会への入会率の低さなど、地方の建築業界を取り巻く環境は相変わらず厳しく、士会も大きな変革を余儀なくされようとしています。

このような状況は静岡だけに限らず、全国の士会でも同様な状況にあり、各士会ともにそれぞれ対応に苦慮しています。

昨年読んだ読み物の中に、ある組織に参加する人は、そのときから辞めることを考え始めるのだそうです。辞めるチャンスを与えないことが重要となり、建築士会も辞められない何か、参加したいと思える何かを模索したいと思います。事業の活性化を通じ、各地区各ブロックの会員の皆様が入会していただけたと思えるような事業展開が出来ればと考えます。

結びに当たりまして、本年が会員の皆様にとりまして、より良い年となりますよう御祈念申し上げ、年頭の挨拶とさせていただきます。

新しい年を迎えて

静岡県くらし・環境部
建築住宅局長／渋谷信明



謹んで新年のお祝いを申し上げます。

公益社団法人静岡県建築士会の皆様におかれましては、つつがなく新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。また、日頃から、本県の建築住宅行政の推進につきまして、格別の御支援、御協力を賜り厚く御礼申し上げます。

さて、昨年6月に、建築基準法の一部を改正する法律が公布されました。9月25日には一部が施行され、本年6月までには全面施行される予定です。そこで11月に貴会が主催されました講習会において、会員の皆様に対し法改正の内容についての説明をさせていただいたところであります。その結果、第43条の接道に係る認定制度等につきまして、スムーズに施行できたと認識しております。

また、6月に発生した大阪府北部地震では、ブロック塀等の倒壊により、2名の尊い命が奪われ、先日の市の地震事故調査委員会の報告では、ブロック塀の施工不良が原因であると結論づけています。本県においては、これまでもパンフレット「ブロック塀の点検と改善」による自主点検の実施や、補助事業を活用した、撤去、改善を進めておりますが、県民だよりなどを活用してさらなる啓発を行うとともに、補助件数の拡大を行いました。今後は、新たな取組として、安全性の確保とともに、景観に配慮した美しい「いえなみ」の形成の必要性についても周知してまいります。

また、木造住宅の耐震化プロジェクト「TOUKAI-0」につきましても、2020年度末の耐震化率目標95%の達成に向け、市町と連携し、対策を進めておりますが、今後は設計と施工を一体で行う補助制度を拡大してまいります。

さらに、被災建築物の応急危険度判定につきましては、貴会を会長とした「静岡県被災建築物応急危険度判定協議会」を中心に判定実施体制の強化に向けた検討を進め、判定士のさらなる養成や、判定技術の向上、判定実施本部の体制強化など、課題を解決するための具体的な方策について、議論を深めていきたいと考えております。

貴会におかれましては、今後とも卓越した組織力と技術力をいかに発揮していただき、住宅・建築物の地震対策の更なる推進のため、御協力をお願いいたします。

県では、「富国・有徳の理想郷」ふじのくに「づくり」の基本理念を具体化するため、きめ細かな施策を総合的に展開し、地域間の連携を図りながら世界に誇れる魅力を備えた地域づくりを進めてまいります。

今後とも、住宅・建築物の安全性・信頼性の確保や質の向上に向け、一層の御尽力と御協力をお願いするとともに、貴会の御発展と会員の皆様の御繁栄、御健勝を祈念し、新年の挨拶といたします。

昨年10月26日に埼玉県さいたま市で、全国大会が開催されました。



会場は大宮ソニックシティ パレスホテル大宮

露店が数多く出店されていました

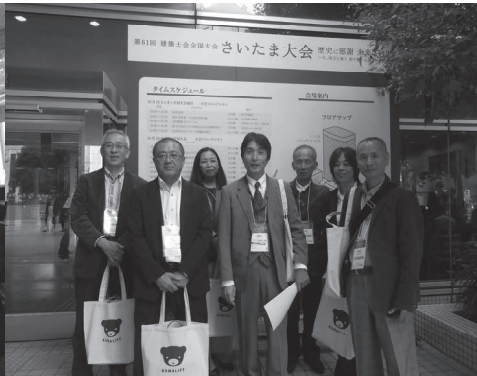
大会式典に続々と会員が集まってきました



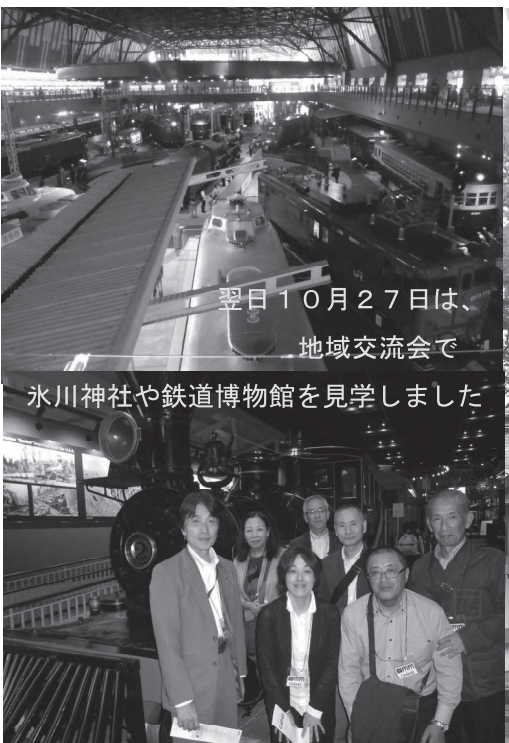
大会式典の様子



大交流会も盛大に行われました



会場で記念撮影



翌日10月27日は、
地域交流会で
氷川神社や鉄道博物館を見学しました



吉報です

佐藤博行前会長が、2018年秋の叙勲で旭日双光章を授章されました。

栄えある授章、誠にありがとうございます。公益社団法人静岡県建築士会会長として、東海地震対策の推進に邁進され、県民の住生活の安心・安全な環境の整備に貢献された努力がこのような形で結実されました事は、我が事のように嬉しく、誇りでもあります。これからもより一層の御活躍を心からお祈り申し上げます。

青年企画委員会事業報告

全国大会 さいたま大会 参加報告

本会青年企画委員長 渡邊 俊伸

10月25日(木) 全国大会開催に先立ちまして全国青年フォーラムに参加いたしました。
全国青年委員長会議より引き続き講師をお迎えしてメガワークショップを開催いたしました。今年度は連合会青年委員が例年に無い企画をし、また参加申し込みを厳格にしたことも重なり、過去最多級の人数でした。

『僕らが考える明日、10年後の建築士』と題して4人～5人のグループに別れ次から次にでる講師からの問いかけに真剣に考え議論し発言し合うといった内容でした。10年後私たち建築士または建築士会はどうなっているのだろうか？どうしていくべきなのか・・・各地域での問題はさまざまありますが、全国的に共通している事は会員の減少です。

10年後の建築士もさることながら建築士会にとっても非常に考えさせる時間となりました。



10月26日(金) 地域交流セッションでは東海北陸ブロックを代表して福井県が小浜市の観光待ち歩きマップを作成したものを発表いたしました。各ブロックが発表後投票になり最優秀は長野県の発表になりました。長野県はここ数年かなりの確立で表彰されておりますが、大勢かつ多額の予算をいただける事業展開がはたしてどうなのか？など評価の視点での問題点があるにせよ活発に活動できている事に間違いは無くすばらしい事です。



私たち静岡も他県のすばらしい活動に羨むばかりでなく実りある活動目指してまいりたいと思います。



下田黒船ホテル



伊東沖に停泊している帆船

《 近現代建築調査・実施中 》

文化庁が「近現代建築緊急重点調査」を2015年から進めています。神奈川県、奈良県が終了し、今年度来年度、静岡県と鹿児島県が実施しています。この近現代建築とは、1945～2000に建築されたものをいいます。そのなかで優れたものを40選定し、適切な保護を図っていこうとするものです。建築学会、建築士会、JIA三者の協力体制で進めていますが、今年度は40のうち8件なので、本会は景観整備機構・まちづくり委員会委員7名で対応しています。来年度は32件の詳細調査なので、SHEC構成員の参加が必要になります。

最終的に40件を絞り込むのですが、予備調査において約450件がリストアップされ、西・中・東部がそれぞれ約100件で、伊豆が約150件あり、それらの存否不明なものから現地確認が必要になります。

伊豆地区担当として自分の場合熱海～下田までを一人で調査することになりましたが、大変なのは、伊豆地区リストが未整備でリストに記載された住所を検索してもその住所がヒットしないとか、グーグルマップで見ても回りが植え込みだらけで建物があるかわからなかったりすることでした。



植え込みに隠れた別荘、しかしあるにはある

しかしながら、久しぶりに下田・熱海伊豆山地区などに行ってみると、こんなところにこんな建物があったのか、これ廃墟になったのかとか、やっぱりこの地区は景気がよさそうだななどと不審者と見まがうように徘徊してしまいます。

インターネットと地図とカーナビを頼りに現地近くまで行ってみても、リスト記載された住所が存在しなかったり、対象建築物が木立に囲まれていたり、建物が存在する別荘地がオーナー関係者以外立ち入り禁止

とかハプニングの多い調査です。

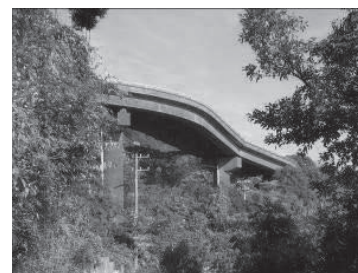


熱海中学校天然芝グラウンド

苦しみあれば楽しみありで、普段は車で通りすぎてしまう熱海の海岸を散歩したり、長距離運転の休憩にパーキングで冬に向かい澄み切った海を眺めリフレッシュとか、結構いいこともあるのです。又リストになくても「これすごいな」という建築を発見したり、それなりに調査を楽しんでいます。



熱海地区のモダンな邸宅



建設途中で廃棄された別荘地進入路

1日の走行距離が100km以上と駆け足の調査ですが、景色を楽しみながら調査しています。



伊東地区・池田20世紀美術館

石田充利(東部ブロックまちづくり委員長)

2018しずおか木造塾 第1講座（木構造）

しずおか木造塾委員会 委員長 清水 利至

平成30年9月8日に静岡市の県産業経済会館で、今年度は木構造の講義からスタートしました。

第Ⅰ部「ヤマベの木構造の勘どころ」

山辺 豊彦氏（構造家・東京）

木構造を計画するとき、まず鉛直荷重を支える軸組をしっかりと考えてください。使用上問題となる、たわみが発生しないこと、梁の端部の支持点を外れたりしないことなどを確認します。

次に、地震時や強風時の水平荷重に対する鉛直構面（耐力壁）と水平構面（床組・小屋組）の計画となります。これらを検討するときには、設計者がどこまでの強度を必要と考えるか決めて、上記を繋ぐ各接合部が破壊しないための確認も必要です。

計画する建物の構造的特徴を理解し、それに対応した構造計画を行うことで、特殊な建物でもしっかりと強度を持たせることができ、そのためには建物にかかる力の流れを読むことが基本になります。

木構造の改修を行うときも基本は、新築の場合と同じですが、現存している建物なので、それらの情報は現地を調査して確認することになります。

改修でも建物の構造的特徴と問題点を把握することが、合理的な補強計画を行ううえでは大切になってきます。

そのうえで軸組、鉛直構面、水平構面、接合部の補強について試行錯誤しながら、いろいろな方法を組み合わせて、全体の構造計画のバランスを整えていきます。

〈講師・最新刊〉

『ヤマベの耐震改修』（エクスナレッジ）

第Ⅱ部「最新の構造実験の結果から学ぶ」

五十田 博教授（京都大学）

これまで数多くの木造建築物の震動台実験を行ってきています。実台実験は事前に計画を十分行っている程度の結果を想定して行っています。

しかし、その想定した結果を出すのは簡単ではありません。ある程度までの破壊のメカニズムは比較的予想がつきます。しかし、倒壊の段階となるとどちらに倒れるか、倒れるか倒れないかさえも予測が難しいというのが現在の状況です。

その原因としては、多くの不確定な要素、ちょっとしたタイミングのようなものが影響しています。

一方で、実台実験に使う地震波の特徴とその強度を選ぶことで、繰り返しの地震で倒れないようにすることも、数回の地震で倒すこともできるのです。

建物を倒壊させるのは単純に地震の強さを表す震度だけではなく、どのような特徴を持った地震波が、どのような振動特性を持った建物に入力したかが、結果を左右するのです。

では、倒壊しない木造をつくるためにはどうしたらよいか、それは水平力に対して強い建物をつくることです。弱い建物ではその建物を倒すほどの振動でなくても損傷を起こし、さらに強度が落ちることで倒壊に至ります。しかし、強い建物は弱い建物を壊す地震波では損傷しません。また強い建物を壊す地震波がきても損傷はしても、建物を倒すことができる震動ではないので倒壊することはありません。

壁量を基準法の2倍として、適切な接合部をつくることで倒壊しない強い建物になります。

2018しずおか木造塾 第2講座（リノベ・デザイン）

しずおか木造塾委員会 石上 鎮夫

平成30年10月20日に静岡市の県産業経済会館で開催。

第Ⅰ部「マンションの木質リフォームの極意」

小谷 和也氏（マスタープラン事務所・兵庫）

昨年の講演が好評で今年も講師として登壇して頂きました。フリーターから工務店、そして設計事務所を営む小谷さんは、「マンションリノベーション」という競争率の少なく、建築家の力が発揮される分野に特化されていて全国で活躍されています。

小谷さんご自身は、一戸建ての住宅に住んだことがなく、現在の自邸もリノベーション作品で、170㎡に3世帯と事務所が同居。

最近、一戸建て住宅をを手がけたが、断熱、気密など不慣れで大変だったとのこと。

「木のマンションリノベーション」

安価なマンションで、手軽に木の家をつくる。

集合住宅であるため、上下左右に住居があり、改修作業での遮音に最も気を使う。

住まい手の「収納が少ない、日当たり、風通し、新建材の劣化など」の現状の不満を解消してあげることが大事で、**解消の方法は、オンリーワンの工夫、差別化が必要である。**日本はリノベ後進国で我々が変えていく必要がある。

マンションは住環境が良く、南に大きく面していることが多く、高層階では虫もいない。

サッシは、断熱のため内窓を多く採用。

床の遮音は置き床が基本でスギの厚板30mm仕様で、遮音マットは簡易試験方法がばらばらで信用できない。自社での試験により遮音方法（置床）を実験し採用しているので、安心して薦めている。

平面プランは、可変性を持たせるため、基本的に置き家具とする。部屋の仕切りも移動家具とし、将来の変化に対応できる設計としている。

改修予算は、「一戸建てが建てられるよね？」と言われることがあるが、耐えられる心を身につけた（笑）。私と年齢も近く、親しみやすいトークで勉強になりました。

第Ⅱ部「国産材活用の住宅設計法」

松永 務氏（アトリエMアーキテクト・静岡）

広島出身で大阪の三澤夫婦と30年の付き合い。桎組壁工法を早くから取り入れ設計をしている。ハウスメーカーのモデルハウスなども手がけている。ハウスメーカーの設計は、タズナを締め、コストダウンの方法を提案する。リビングという概念はもたず、広間や〇〇コーナーという考えで設計している。

「国吉田の家」では初のJパネルでの設計で、三澤先生に聞きながら設計を完了した。

Jパネル落とし込み工法での設計では、構造体が表しのため、金物位置が重要で1/50模型を組み立て、製材所と打合せする。

配管経路、電気配線等も表しの内装のため、設計段階での検討、現場位置出しが重要で、電気配線の立ち上がりのみプラスターボード12.5mm+ルナファザーで仕上げる。

『ビフォーアフター』

さだまさしの詩島再生計画』

静岡県産材の杉Jパネル活用によるリフォームで、島にある各施設を再利用してリニューアルした。廃船を土留めとしての再利用が印象的でした。さだまさしさんとの交流や低予算など裏話も聞くことができました。

〈参考：Ms建築設計事務所 三澤康彦・文子著〉

『最新版 最高の「木造」住宅をつくる方法』

（エクスナレッジ）

歴史

ブラックコーヒー／東部ブロック

現在、ニュースや新聞等で様々な外交問題が報じられています。慰安婦問題、領土問題、靖国問題等、近隣諸国との間に様々な諸問題を抱えています。先の戦争から70年以上経った今でも解決できていません。いったいいつになったら解決できるのか？このような諸問題を解決する術はないのでしょうか？近隣諸国との外交問題が報じられるたびに、そのようなことを考えます。

戦後の日本の教育は、日本は帝国主義による、侵略戦争を行った悪い国だというような歴史観を教えてきました。この戦時期をめぐっては、様々な見方、捉え方があり、いろいろな歴史論争が繰り広げられています。日本が行った戦争は侵略戦争だという見方、侵略目的ではなく欧米列強のアジア侵略を阻止する為の戦争だったという見方、自存自衛の為の戦争だったという見方。他にもそれぞれの歴史観や立場によって様々な意見があると思います。どれが正しくて、どれが間違っているのかは戦後70年以上経った今では、はっきりとした真実を検証するのは難しいのかもしれませんが、戦後70年以上も経過し、現在は戦争とは全く関係ない人同士が交流しています。後何年、何十年、もしかしたらそれ以上？いったいいつまで上記のような諸問題を抱えていかなければいけないのか？今の子供たちまでこの問題を抱えていかななくてはいけないのか？つくづく戦争が残した傷跡の大きさを痛感します。

現在でも世界では様々な戦争や紛争が起きています。おそらく世の中から争いごとがなくなることはないでしょう。そのような世の中で今後日本はどのように対応していったらいいのか？今の子供たちをどのように導けばいいのか？自分たちは何をすればいいのか？難しい問題ですが、みんなで考えなければいけない問題です。

台風被害の賠償責任

シュワッツのブレーキング／東部ブロック

9月30日未明から10月1日にかけて本州に上陸した台風24号は静岡県にも大変な被害をもたらしました。かくゆう私の家も被害にあってしまいました。

深夜から吹き荒れた強風のさなか何かが外壁にぶつかる音は何度かしていましたが、風が強いな程度にしか思わず寝ていました。しかし眠りも覚めるほどの轟音と共にガラスが割れる音。飛び起きて寝室の窓を確認しましたが何事もなく安心し又、眠りに就こうとしたところ、別室に寝ていた妻から2階事務所の窓ガラスが割れているとの事。(寝室は3階でした) 事務所へ行ってみると見事に散乱したガラスの破片が。今、外に出るのは危険なので、ガムテープで窓をふさぎ朝、風が収まったところで外に出てみたところ、隣家の屋根が野地板ごと飛ばされ私宅の外壁に直撃していました。散乱している屋根材は窓と樋を破壊し、受水槽の水道配管は折られ水が噴水のように噴出しているではありませんか。

隣家は借家で半年ぐらい前までは住んでいましたが今は空き家になっています。大家さんは近所の人なのですが、屋根が飛んだことは気付いていないようです。水道管を修理するため屋根材を片付けていると、道路向かいの家の方が自分の家もバルコニーが壊され、窓ガラスが割れたとの事。そしてさらに離れたスズキ自動車販売店の外壁も破壊されているとの事。隣家屋根は3階建ての私宅を超え道路も超えて近隣宅を壊し、さらに100mほど離れたスズキ販売店の外壁と展示してあった車を十数台傷つけたのでした。

私は自宅の修理費を概算しながら大家さんは払えるのだろうかと考えていたところ、同じく被害にあった近隣の方が台風の災害は請求できないとの話。そうなのかと思い調べましたが、確かに災害の賠償責任は負わなくとも良いようです。しかし、明らかに劣化している物を放置してあった場合は賠償責任があるようなのですが、近所の付き合いを考えた場合、請求なんて出来ません。途方に暮れていたところ、会社の損害保険が使用できるとの事。近隣の方もスズキ販売店も保険に入っていたらしく、修繕費は保険で対応できることになりました。

しかし、当の大家さんは昼前に事に気づき、笑顔で「ごめんね」の一言のみ。スズキ販売店の方はキレかかっていました。(多分従業員の車は保険対象外なのではないかと)しかし、逆の立場になった場合、私は「ごめんね」の一言で済ませられる精神力を持ち合わせていないので、周りに迷惑を掛けない様、自宅のメンテナンスはしっかりしようと心に決めた次第です！



隣家の屋根が野地板ごと飛ばされた



私宅の外壁に直撃



2階事務所の窓ガラスが割れた



「日本の中古住宅が売れない理由」

倉田 剛*

2018年12月3日付の日本経済新聞（夕刊）に、「中古住宅なぜ売れない」といった論説が掲載された。その中では、中古住宅が売れないのは、「品質と価格の透明性がカギ」だと結論されている。

また、2019年の消費増税による消費低迷を懸念した政策が議論されている折、高額な買物ともいえるべき住宅取得に対しても、この際、割安な中古住宅に消費者が目を向けさせる好機だとも指摘されていたが、相変わらずの住宅ローン減税措置の継続に終わっている。

世界的比較においても、高額な日本の住宅価格と、極めて短命な住宅寿命とのギャップ（矛盾）の要因は、まさに品質と価格にある。日本の住宅は、海外に比べて途中のメンテナンスがそもそも最初から想定されていない、住宅価格についても極めて不透明である。だから、建築後20年経過した中古住宅の場合は、その売買取引ではほぼゼロ評価とするのが慣習的となっている。中古住宅ストックを購入するにも、中古建物の評価額が低く抑えられている点も資金調達の隘路となって取引件数を減じている。

しかし日本人が「中古住宅を買わない理由」は他にもある。まず日本人の消費性向として、「新しいもの好き」があり、また「せっかち（性急）」な日本人気質があり、したがって「買い替え志向」が強い点は無視できない。中古住宅を購入して、住みながらリノベーションするなど面倒くさい、それならいっそ新築住宅の方が手取り早い、そうした気風がある。また建設業者や金融機関の営業担当者は、顧客のこうした性向を熟知しているから、最初から新築の方を勧めるケースが圧倒的に多くなる。

また、日本家屋の構造的特性も関係している。日本の木造住宅では軸組工法が一般的であり、耐震壁の必要性からおのずと大規模な改造は制限的となっている。最近普及しているパネル工法であったとしても同じことが言える。いまひとつ、住宅区画（土地）の狭小性が、既存住宅の購入意欲を削いでいる点も無視できない。

その他に、インフラなど立地条件の変化が中古住宅ストックの増加と因果関係が指摘される。人口減少の地方自治体にみられる不可解な市街化区域の拡張も問題視されるべきだ。

もちろん新築有利な現行の税制や何度も課税される

消費税、不合理な減価償却規定などの影響については改めて説明を要しない。

朝日新聞社（11月10日付）が行った調査結果によると、

- 1、持家派が87%、賃貸住宅派が13%。「持家が理想」と答えたうち、60代が29%で最多、50代26%、70代23%と続く。
- 2、家賃と違って、ローンを返済すれば資産（持家）になる。
- 3、年金生活だと家賃の負担が重荷。
- 4、高齢者は、賃借することが難しい。
- 5、持家も、長く住んでいると老朽化で修繕費などの負担が大きい。
- 6、マンションは、管理修繕費が増える傾向にあり、退職後はさらに老朽化も進む。
- 7、マンションは、借り手がない空き家であっても管理修繕費の負担がある。
- 8、マンションは、大規模修繕や建て替えなど難しい問題がある。
- 9、相次ぐ災害に、持家から賃貸へと住み替えを考える人が増えてきている。
- 10、災害時でも、気楽に転居できる賃貸の方が気楽と考える人が増えてきている。

前述の調査の回答から、「住宅を選ぶポイント」を次のような条件と順位に整理できる。

- 1、公共交通機関へのアクセス———立地条件
- 2、価格やコスト———価格条件
- 3、陽当たり（日照）———構造条件
- 4、生活スペースの広さ———構造条件
- 5、周辺の商業施設———立地条件
- 6、周辺の医療・介護施設———立地条件
- 7、周囲の騒音———立地条件
- 8、周辺の住民———立地条件
- 9、収納スペースの広さ———構造条件
- 10、緑や自然環境の豊かさ———立地条件

上記からしても、売れる中古住宅の最大のポイントが立地条件（ロケーション）にあることは確かだ。

総務省資料によると、日本の2013年の〈持家率〉は61.7%、一方、〈空き家率〉は年々上昇して、過去最高の13.5%となっている。また空き家が増えている地域であっても、若者は、空き家よりも、「新たに開発された場所」の〈新築・小住宅〉の方を好む傾向が強い。

家族の少人数化と核家族化とが相俟って、大きな家は不経済とされ、マンション・サイズの戸建住宅とも評されるような「小住宅」が好まれるようだ。

* 一級建築士、博士（経営学・法政大学）、博士（経営情報科学・愛知工業大学）、NPO法人リバースモーゲージ推進機構・理事長、一般社団法人住まいの年金化事業促進センター・代表理事、(tysfb25@gmail.com)

海外建築ボランティアに参加した2週間のお話

2018 年 9 月初旬、日本には関西国際空港を水没させた台風 21 号チャービーが接近していました。この風では飛行機は飛ばないだろうと高を括っていたため、定刻通りの出発には心の準備が追いつかず、「ああ死ぬかも!!!」と感じる恐怖のフライト体験となりました。まあ、飛行機に乗る時は毎度のことですが・・・。

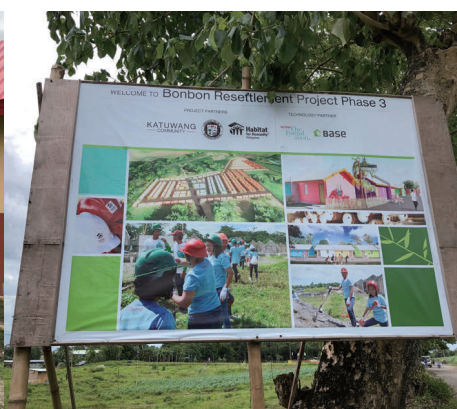
そんなこんなで始まった平成最後の夏休みに参加した海外建築ボランティアの活動報告のお話です。



私たちが参加したボランティアはハビタットフォーヒューマニティー・フィリピンとフィリピン・シライ市によるコミュニティ支援のプロジェクトです。最終段階では 7.6 ヘクタールの土地に 546 の集合住宅とコミュニティ施設を建設します。わたしたちはその中の 86 の住居が集まるコミュニティ造りのボランティアとして派遣されました。



完成後の集合住宅
こんな感じになります



- 7 : 3 0 ホテルで朝ごはん
- 8 : 0 0 ホテルを出発
- 9 : 0 0 活動スタート
- 9 : 3 0 スナックタイム
- 10 : 0 0 活動再開
- 11 : 3 0 お昼ご飯
- 13 : 0 0 午後の活動開始
- 15 : 0 0 スナックタイム
- 15 : 3 0 活動再開
- 16 : 3 0 片付け・終了
- 17 : 3 0 ホテル到着
- 18 : 3 0 夕食へ
- 21 : 0 0 ミーティング

日程は 14 日間。そのうちの 10 日間、わたしたちはボランティアとして活動しました。その他の日は Cultural Activity といって観光を通してフィリピンの文化に触れる日になります。ボランティアの 1 日の流れは右のような感じです。フィリピンではスナックタイムという文化があります。ボランティアの現場ではそこで働くワーカーさんに合わせて動くので、私たちは活動を始めてすぐスナックタイムに入ってしまいます。最初は戸惑いましたが、毎日同じスケジュールで動くのでだんだん流れを覚えて、切り替えができるようになりました。

集合住宅について

現地では様々な段階の家が建っていて、家が完成するまでの過程が見られました。2世帯分が1棟として建てられていて、フロアプランは基本的に2.4フィート（≒0.73m）のグリッドで組まれていて、リビングダイニングキッチン、トイレ（シャワー付き？）、とベッドルームが入るようになっています。



柱の穴

モルタルを詰めます

フィリピンの集合住宅は骨組みが竹でした。竹には穴が空いており、穴からセメントを流し込みます。端の節は壊しますが、真ん中の節はそのままです。骨格の竹の中にはいくつかの空間ができて、ワーカーさんたちは竹を叩く音でセメントがどこまで入っているかを見極めます。



CFTならぬ
CFB(セメント充填竹管構造)

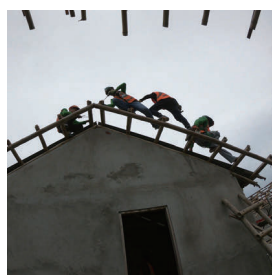


梁も母屋も竹で造ります



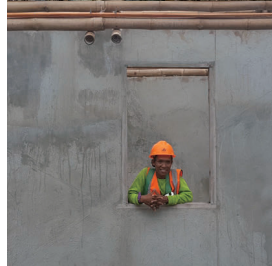
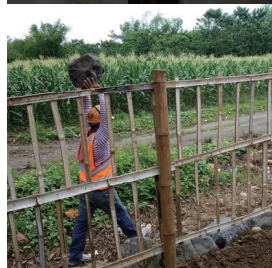
針金を束ねたような胴縁に
両面からモルタルを塗って壁を仕上げます

Philippines Worker



ボランティアの現場で働くワーカーさんは30人程です。その全てをまとめるタイムキーパーがJOEYです。彼はみんなからボス！と呼ばれています。中には英語を話せるワーカーさんもいましたが、ほとんどは現地の言葉のイロongo語を話します。イロongo語で『疲れた』は、kapoi(カポイ)と言います。「kapoi?(疲れた?)」と聞かれたので「No kapoi(疲れてないよ)」と答

えると面白かったようで、笑ってなんども「kapoi?」と聞く遊びができました（よくわからないツボでした）。ワーカーさんたちは役割分担がされていて、毎日同じ仕事をします。休憩も時間通りにみんな一緒にとります。意外にもフィリピンのワーカーさんは真面目で、休憩が終わるとすぐ持ち



場に戻りしっかり仕事をします。歌ったり、お話ししたり・・・、私たちの派遣中、お給料の日があり、その日はわかりやすいぐらいにウキウキしていました。面白くて陽気な人が多かったです。

わたしたちの仕事



壁材のモルタルに使うための砂を作り出す仕事。とにかく大量の砂が必要になるので、毎日やっていた仕事。「細かくても砂利があると壁がザラザラして綺麗じゃないから、気をつけて」と指示されました。

フィリピンのワーカーさんは意外と几帳面。

集合住宅のモデルハウスの壁を白く塗る仕事。それに加えて絵も描いてほしいと依頼を受けました。絵の上手なメンバーがいたので、遠慮なくサインまで書かせていただきました。急な依頼にも関わらず、メンバーが描いた絵は堂々としていて誇らしく思いました。



庭に敷く砂利を袋に詰める仕事。置いてあった大量の袋全てに砂利を詰め終わって達成感に浸りながらワーカーさんに「DONE！（終わった!）」と声をかけると、どこかへ行き、笑顔で大量の袋を抱えて舞い戻って来ました。山になっている砂利全てを詰め終わるまでそれは続けました。

骨格となる竹の亀裂にノリを詰めていく仕事、とても地味ですが割とみんな好きな仕事です。ひたすら黙々と…お昼を食べた後にやると眠たくなりますが、見た目と強度に関わる大事な仕事です。



集合住宅を囲むバンブーフエンスを作る仕事。初日トンカチの使い方に慣れず、なかなか進みませんでしたが、8日やっているとうちで働けるほど上手くなります。仕事の流れを掴むとそれぞれが次のことを考えて動くようになり、いただいた仕事の中では達成感とチーム感を一番感じました。

この続きの「フィリピン観光ごはん編」と「カンボジア編」をWEB版で掲載します

「誰のためにやっているか分かるボランティア」であることが、この活動をしようと思ったきっかけでした。昨年のカンボジアでの活動では、住む人が決まっていた、その家族と力を合わせて個人の家のリノベーションをしました。そして、完成して喜ぶ家族のみなさんを見た時は、今までにない達成感を感じました。

しかし、今回の活動は、まだ誰が住むか決まっていな集合住宅の建設のお手伝いでした。一緒に行ったメンバーの中には「いったい誰のためにやっているんだろう？、なんのためにやっているんだろう？」と疑問をいただく人がいました。それを聞いた時に、「ああ、確かに」と思ったと同時に、「ボランティアってそういうことじゃないんじゃないか？」という反対の気持ちも起こってきました。

世の中にあるボランティアのほとんどが顔の見えない人のためにやっています。顔が見えなくてもどこかの誰かのために募金や寄付をします。このGVという活動は特別で優れていると考えていましたが、タガタメという根っこの部分はどれも同じという想いが頭に浮かんできました。

1円募金をすることも、お金をかけて現地に行っ行なうこの活動も、小さくても大きくても、顔が見えても見えなくても、なにか考えがあっても無心でも、ボランティアはボランティアであり、「誰かのために・・・」という優しい気持ちが、一番大切なことだと思います。その気持ちは、全て一緒のことだと、今は、感じています。

WEB版、ぜひ



静岡文化芸術大学 デザイン学部 2年
井澤 恵里子

今回のボランティア派遣は、私にとって3回目の派遣です。初めはインドネシアへ、その次はカンボジアへ行きました(カンボジア編はフィリピン観光ごはん編と合わせてWEB版をご覧ください)。

同じボランティアに3度も参加することは、NGOの学生支部に所属している私たちサークルの周りではそんなに珍しいことではありません。しかし、一歩外へ出ると「なんでそんな何回もボランティアに行くの？」という意見を聞くことが多くあります。私はというと、たまたまこのボランティアがすごく面白く、楽しい活動だからやっているだけで、実はボランティア自体にそれほど興味があるわけではありません。

この活動にどんな意義を見出してやっているかは、人それぞれだと思います。私は人との「邂逅」が楽しくて続けているのだと思います。支援する人たちやそこで働く人たちの、観光では触れられないそれぞれの当たり前や感覚の違いがとても面白いと思うし、いろいろな話をして、そして通じ合えることに、この上ない嬉しさを感じます。一緒に派遣に行く仲間ともいろんなことをたくさん話します。

スマホの中で生きているこの時代に、こんなにたくさんの人達と、じかにすぐそばで話して、笑いあえることはすごく貴重な時間だと思います。ここで出会う人たちが好きだから、たのしい、面白い、頑張ろうと思えます。これが3度の派遣で私が見つけたこの活動の意義です。

ご覧ください！



静岡文化芸術大学 デザイン学部 3年
小川智花

第9回高校生の「建築甲子園」静岡県予選大会

本会青年企画委員長 渡邊 俊伸

今年で9回目を数えるまでになりました『建築甲子園』。今回も「地域のくらし リノベーションの可能性」をテーマに開催されました。今年度より全国大会出場は各県1作品に限られ静岡県内では大変な激戦区となっておりましました。昨年度、全国で審査委員長特別賞に輝いた天竜高等学校をはじめ、過去には全国優勝にもなった事のある科学技術高等学校など静岡県は全国でもトップクラスと言える事でしょう。しかしながら今年から無常にも1作品しか全国に送り出す事ができず例年にない厳しい審査会となりました。連合会よりの提出期限の変更などがあり、昨年まで実施してきました公開審査会は各学校との折り合いがつかず

今年度に限り中止となりました。非常に残念です。

10月20日葵区ペガサートにて審査会を実施いたしました。飯尾会長をはじめ松下副会長、原田理事に例年通り審査していただきました。どの作品も甲乙つけ難く、難しい審査になりました。その中でも天竜高校の「竜灯に集う今昔物語」が総合的に評価され見事2年連続全国大会へ出品になりました。この際、毎年おもうのですが、どの作品も全国へ送りたいと思うのは私だけではないはずです。選ばれなかった作品も全国で充分戦えるものだと思います。

高校生のみなさん！お疲れ様でした。

そしてありがとうございました。

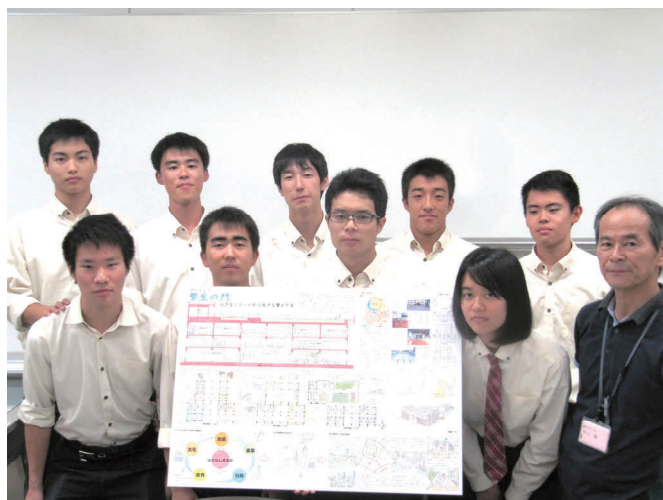
作品名 繋生の門～小さなしぞ～かから大きな繋がりを～

あ～静岡はいいねえ～。古くは登呂遺跡に始まり、家康ゆかりの駿府城、お茶やミカンなどの名産品もたくさんある。こんなすばらしい静岡の町。近年、静岡市が行う「生涯活躍のまち静岡」により、元気な高齢者が中心街に集まりつつある。現在の静岡市は商業エリアが活発である。その一方、歴史ある静岡のイメージが薄れてきている。

地域のコミュニケーションが減少していることも問題だ。そこで、静岡市の中心に位置する旧青葉小学校をリノベーションする。バラバラになっていた歴史・文化と商業をつなげる門をつくり、たわいもない話しをしながらさまざまな活動を通して交流を生む。地域のつながりを深める。そして、人々の交流を広げ静岡の経済が循環する。人々が静岡市とつながり、良さを感じすごしていけることだろう。

作品名 学びの集い場

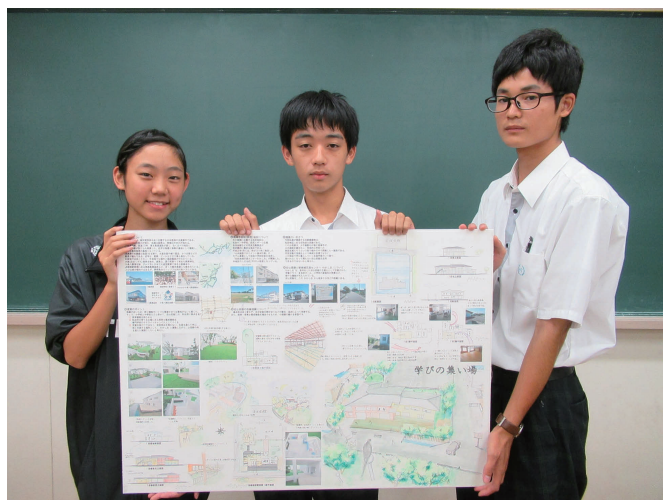
静岡県中央部に位置する日本屈指の水産都市焼津。3つの名が知られた川がこの市を流れ、北には標高500m級の山がそびえている。JR東海道本線、国道150号、東名高速道路が通じ、中世から現在にかけて漁業の基地となった経緯を持つ。市東側に位置する和田地区は、小・中学校やスポーツ広場、自治会館などの市民活動拠点が徒歩圏内に集まっている。その中で、将来を見据えた焼津市の公共事業の一環として、小学校の校舎を活用した交流センターが平成30年度に開館した。私達が提案する対象建築物は、交流センターが開館した際に閉館した旧公民館である。活動の核となる交流センターの機能を補完し、保育所・保育士養成機能などを加え、「生涯を通じた学び」に主眼を置き「学びが集う」ことで地域住民の交流や暮らしを支える施設としたい。



静岡県立科学技術高等学校

監督 杉山 諭 先生 選手9名

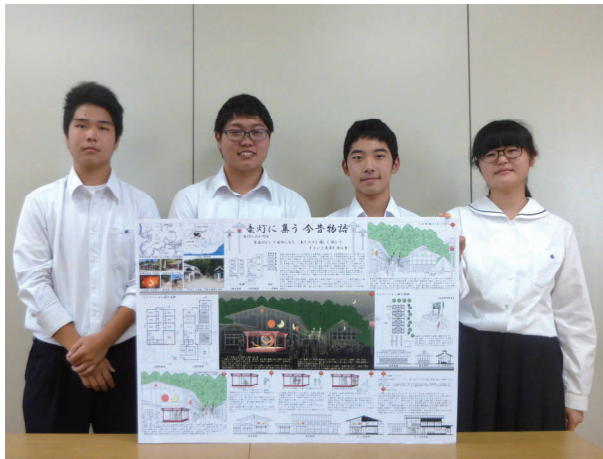
チーム名 しぞ～か科技高 建築研究部



静岡県立島田工業高等学校

監督 坂本 真生 先生 選手3名

チーム名 島エコンペ班

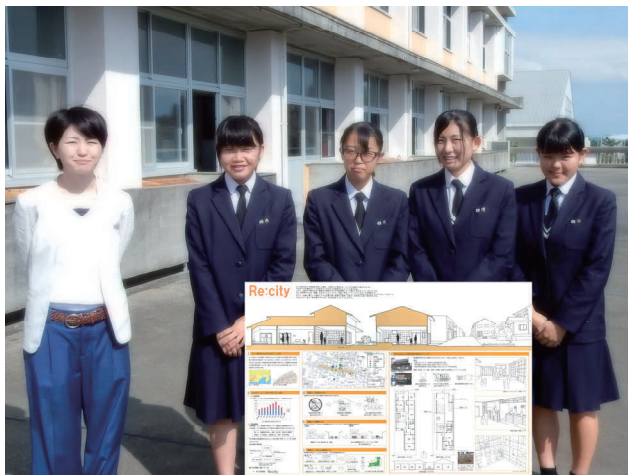


静岡県立天竜高等学校
監督 太田 武 先生 選手 4 名
チーム名 チーム天竜

作品名 「 燈籠に集う今昔物語 」

燈籠に火が灯る 常夜灯として目印になり、集う人々を優しく照らす そういう光景も今は昔…

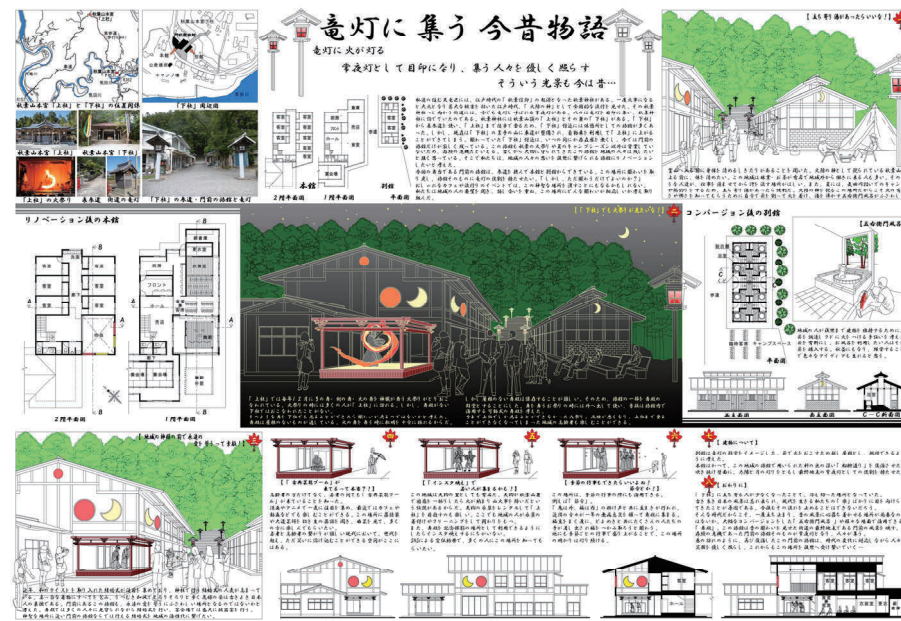
私達の住む天竜区には、江戸時代「秋葉信仰」の起源となった秋葉神社がある。一度火事になると甚大な被害を招いた江戸時代、「火防の神」として全国的な流行を見せた。その秋葉神社へと向かう街道には、今でも燈籠と呼ばれる常夜灯がある。人々は常夜灯を目印に集い、秋葉神社に詣でていたのである。秋葉神社には山頂の「上社」とその麓の「下社」がある。「下社」から表参道を通り、「上社」を目指すため、その付近には休憩所として、多くの旅館があった。しかし、現在は裏手の山に車道が整備され、自動車を利用して「上社」に上がってしまう。賑わっていた「下社」付近はいつの間にか存在感を無くし、今では門前の旅館だけが寂しく残っている。古くから大切に守られてきたこの門前の旅館を地域の人々は残したいと強く思っている。そこで私たちは、地域の人々の思いを聞き後世に繋げられる旅館にリノベーションしたいと考えた。



静岡県立浜松工業高等学校
監督 大井 祥子 先生 選手 4 名
チーム名 浜工意匠班 A チーム

作品名 Re : city

三ヶ日町には多くの特産品や美しい景色、人柄のよい町民など、たくさんの魅力であふれている。その中でも全国的なシェアを誇る三ヶ日みかんは貯蔵みかんとして人気がある。しかし、現在その魅力が少子高齢化や過疎化などの社会問題によって隠れて見えなくなってしまっている。そこで貯蔵みかんの「貯蔵」をデザインコードとし、空家、町をリノベーションすることを提案する。空家には「人・歴史・情報」を集め、貯蔵する。それを発信することで三ヶ日町の魅力を現在の三ヶ日町に新しく発信する。そして、貯蔵＝棚として増加している空家に棚（貯蔵する空間）を設ける。そうすることで街全体にも統一感が生まれる。こうすることで、新しい町が魅力づけられ、それが広まっていくことだろう。



平成 30 年度 優勝作品の紹介 作品名

「 燈籠に集う今昔物語 」

燈籠に火が灯る 常夜灯として目印になり、集う人々を優しく照らす そういう光景も今は昔…

静岡県立天竜高等学校
チーム天竜

◆編集後記

静岡文化芸術大学の小川さん、井澤さん、そして、高校生の皆さんありがとうございました。諸問題多き建築業界ですが、鉛筆 1 本だけで夢を描くことも可能な世界です。みなさんが活躍する未来を心待ちにしています。いつか共にお仕事ができたらいいですね。

さて、今年の5月に改元となります。どんな年が待っているのでしょうか、さてもさても楽しみです。頑張りましょう！！

編集長：広報情報委員 志茂野昌歳

◆ご意見募集

静岡県建築士会広報情報委員では、広報誌「建築静岡」をより有益な情報源とするためのご意見、ご提案を募集しています。お名前、ブロック名をご記入の上、下記あてに FAX でお願いします。なお、いただきましたご意見は非公開とし、個々のご意見への直接回答は控させていただきます、ご了承下さい。

公益社団法人 静岡県建築士会
広報誌意見募集係 FAX 054-273-0478

◆広報情報委員会

担当理事：立石昌江 (中部)
委員長：杉山真一 (中部)
副委員長：内山孝 (西部)
：鈴木忠 (東部)
委員：塩見敏弘・三田芳之・長尾隆行 (東部)
小沼勝也・星野浩二・佐野真浩 (中部)
福田光宏・山口知己・志茂野昌歳 (西部)

編集長：志茂野昌歳 (2019 Winter)

発行所：公益社団法人静岡県建築士会
〒420-0857 静岡市葵区御幸町 9 番地の 9
TEL 054-254-9381 FAX 054-273-0478
http://www.shizu-shikai.com

印刷所：(有)橋本印刷所

会員数 平成 30 年 11 月 21 日現在
■正 会 員 1,191 ■賛助会員 150 ■合計 1,341

入会者
■正会員 4 名 ■賛助会員 0 社

三島：竹下 宜宏 1 級 S60 生 有限会社 三栄ホーム
田方郡函南町仁田 82-6
静岡：松永 達哉 1 級 有限会社 松永和廣設計事務所
静岡市清水区下野西 4-5
志太：早川 建 1 級
榛原：矢野 三成 2 級 S51 生 飛鳥建設 (株)
牧之原市時地頭方 1558

物故者
■正会員 2 名 ご冥福をお祈り申し上げます。

山崎 光允 (熱海)
山崎 弘資 (静岡)

退会者
■正会員 3 名 (物故者含む) ■賛助会員 0 社

静岡県建築関係規則集 (平成 30 年度版) 販売のお知らせ

静岡県建築士会では、静岡県建築関係規則集 (平成 30 年度版) を販売しております。この静岡県建築関係規則集は再版の予定が無い為、在庫限りの販売となります。

発 行 公益社団法人静岡県建築士会
監 修 静岡県 くらし・環境部 建築住宅局
価 格 建築士会会員 4, 0 0 0 円/冊 (税込み)
※発送も承ります (有料)

詳細は当士会のホームページでご確認ください。

販売場所 本会事務局・各ブロック事務局
本会事務局 TEL: 054-254-9381 東部ブロック TEL: 055-939-8210
中部ブロック TEL: 054-204-6880 西部ブロック TEL: 053-451-5166

公益社団法人 静岡県建築士会 2018 会員名簿

《試験機構》			《2018年11月30日までの追記及び変更分》		
9ページ	氏 名	地区			
	○ 杉 山 穰	静岡			

《正会員》										
ブロック 頭文字	地区	会員番号 氏名	生年 入会年	資格	級 別	〒	自宅住所	電話 FAX	勤務先 勤務先住所	電話 FAX
東部 い	伊東	1020014 石田 充利	S31 H11	判相 C	1	414-0002	伊東市湯川1-4-12	0557-37-3787 0557-38-2505	(有)石田組 伊東市湯川1-4-12	0557-37-3787 0557-38-2505
東部 き	御殿場	1070108 木宮 博樹	S31 H25	判相	1				一級建築士事務所K.i設計 御殿場市川島田598-1	0550-78-7010 0550-78-7011
中部 あ	清水	1090229 足立 修一	S37 H25	判相	1				アダチ設計一級建築士事務所 静岡市清水区セツ新屋1丁目12-4 プレジール御門101	054-368-7691 054-368-7691
中部 お	静岡	1100054 大塚 功二	S34 H08	判相	1	420-0949	静岡市葵区与一6-14-55		有限会社 創作舎 静岡市葵区秋山町15-2	054-205-3222 054-260-7088
西部 き	浜松	1160576 北村 大樹	S63 H27	相	1				エヌテックサービス株式会社 浜松市中区住吉5-26-36	053-412-0251 053-412-0255
西部 し	浜松	1160175 嶋田 芳久	S27 H03		1	431-1111	浜松市西区伊左地町2807	053-485-0189	嶋田一級建築士事務所 浜松市西区伊左地町2807	053-543-9088 053-543-9088
西部 た	浜松	1160229 高柳 敏彦	S32 H09	判	1	435-0041	浜松市東区北島町726	053-421-3167 053-421-3167	株式会社レオハウス浜松店 浜松市西区志都呂二丁目31-40	053-445-1233 053-440-4155

※資格欄は略号で 判 = 判定士 相 = 相談士
記載されています。 C = CPD 専 = 専攻建築士

《賛助会員》									
ブロック	地区	会員番号	名 称	〒	所在地	電話FAX			
西部	浜松	8160082	株式会社建築資料研究社日建学院浜松校	430-0936	浜松市中区大工町125番4号ハム鶴江小路ビルディング 1F	053-546-1077 053-546-1078			